〈別紙2〉

1982年 1月 20日 水曜日 No. 1

イワクニ基地撤去
市民ニュース

編集発行人
岩国市今津町1丁目14−51
反戦反核
岩国市民会議
Tel 0827−22−1611

拡声器

岩国市民は国防の犠牲になりたくありません

沖合移設は実現しても……跡地は市民に戻ってきません!

「沖合移設が実現しても、跡地は市民に戻されませんよ!」岩国市内で、市民にこのように伝えたら……「沖合移設は絶対反対!」とみんな応えるはずです。いま、県・市が推進している岩国基地移設計画は、基地そのものの現状を擁護、むしろ基地の拡大強化をはかるもので、市民には許すことのできない企みです。

岩国基地沖合移設 実は基地の拡大強化に

何年経っても「移設促進!」本当の目的は"基地ハンタイ"の口封じ

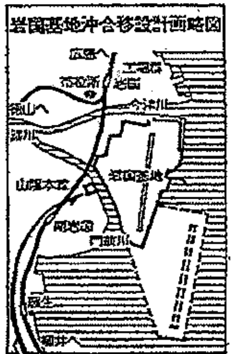
昭和43年、岩国市議会において「移設に関する決議」がなされて以来、関係団体の言っていることは全く変りありません。

10年前、市体育館で千人を集め、すぐにも実現するような総決起大会を、一昨年は又、市民会館で同じような総決起大会を開催し、そしてこのたびの東京大会です。全く同じパタレンで「今年こそは…」。形ばかりの政府予算を要求し、莫大な飲み食い費を使って「運動」だけを続けてきました。

戦後37年、戦争に反対し基地に反対する大多数の市民の声をうまく利用し、基地擁護・国防協力に転じさせようとする県や市の態度は卑怯です。

「沖合移設なんて、本当はやれるハズがないんだよ!」——岩国市内のあちこちで、移設を推進している人の口からしばしば聞かされることばです。

オマケに「移設推進」さえ言っておけば基地の苦情も押さえることができるし、政府や自民党にも良い顔ができるし…」とのうがった解説まであります。



岩国基地沖合移設計画略図
廃止された愛宕通信所

「跡地返還」絶対不可能

岩国市民に「なぜ沖合移設に賛成ですか?」と訪ねると「そりゃー跡地に工場ができ、働らく場所も増えるし、基地の事故も騒音も減って、これほどエーことはないでしょう」と返ってきます。

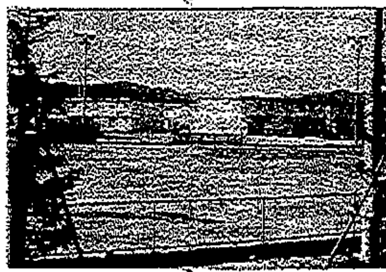
皆さん、そんなウソに騙されてはいけません。基地跡地は国の三分割有償方式できびしく使用が制限され、戻ってくるどころか地元の意志も通じることはないのです。

【三分割有償返還方式とは】

米軍基地跡地の利用方法について「国有財産中央審議会」の答申によってまとめられた方式。

これによると、跡地を1/3ずつ分割し①地元地方公共団体等に時価で払い下げる②国、政府関係機関の利用③当分の間その処分を保留に——の三地区に分割されるもの。結局、地元への1/3も時価で買わねばならぬし、残る2/3はそのまま基地として利用することが可能なわけだ。

一方では、続々できる恒久施設 一戸3800万円の米軍住宅を!



岩国基地の門前川向かいに愛宕通信所という13万平方米もの附属基地があります。

この施設は既に廃止され、返還されるべきものなのに、実際は大違い。この跡地に日本政府は米軍への思いやり予算で、一戸3800万円を税金を使って家族住宅を続々建設しています。住宅難で苦しむ市民には腹わたの煮えたぎる思いです。さらには、そのそばでは軍人子弟のリトルリーグ専用グランドが、ナイター施設までつけて作られています。